

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【美園南中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、教科や学年によって定着度の差が見受けられた。次年度に向けて、教科会議を通して指導方法の見直しを行いたい。また、ICTを活用した効果的な家庭学習のあり方を検討していく。
思考・判断・表現	複数の知識や技能を組み合わせることで表現することに課題が見られたため、教科横断的な視点として、表やグラフの特徴や傾向を捉えて、言葉や数を用いて表現する活動を検討していく。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に取り組み、思考力や表現力の育成を図りたい。
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合がどの学年も90%以上を目指す。また、次年度は「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」を59.0%から65.0%に向上できるように、家庭学習のあり方を検討していく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R4年度全国学力・学習状況調査の自校結果より、国語・数学の「知識・理解」において3pt向上させる。	⇒ 「スタディサプリ」での家庭学習を配信し、基本的な知識・技能に関する問題の反復・習熟を行う。その際、生徒の学習履歴を確認し、生徒への支援につなげていく。
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査の自校結果より、国語・数学の「思考・判断・表現」において3pt向上させる。	⇒ 「ミライシード」や「Teams」などの機能を有効に活用して、教師と生徒、生徒同士の思考の共有化を図る。また、ヘッドセットやタッチペンを活用した表現活動を行う。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ 全ての授業において課題を設定し、解決の見直しをもたせ、自力解決する場面を設定する。また、「Teams」や「Forms」を活用し、自己の振り返りができる時間を設定する。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	全国学力・学習状況調査の国語で課題だった「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、さいたま市学習状況調査の結果で改善が見られた。また、さいたま市学習状況調査の平均正答率と比較し、1pt以上の向上が4教科中3教科でみられた。	B
思考・判断・表現	全国学力・学習状況調査の数学で課題だった「数と式」及び「図形」については、さいたま市学習状況調査の結果で改善がみられた。	B
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が89%となり、目標値の90%以上には届かなかった。しかし、全学年ともさいたま市平均を超えており、主体的に学習に取り組もうとする姿勢はみられたといえる。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語-4pt、数学-8ptであった。国語については、「言葉の特徴や使い方に関する事項」及び「情報の扱いに関する事項」に課題がある。
思考・判断・表現	数学では、「数と式」及び「図形」、「データの活用」の領域で無解答率が高かった。また、英語では、「社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由をかく」「日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章をかく」ような「書くこと」に課題が見られた。複数の知識や技能を組み合わせることで表現する問題に課題があると考えられる。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合が78%で、目標に達しなかった。より一層、子ども主体の学びとなるよう教職員が授業改善に努める。

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。	
中1	令和5年度さいたま市学習状況調査の「教科別調査結果」において、国語+2.1pt、数学+1.6pt、社会+2.9pt、理科-0.5ptという結果だった。「教科領域等別調査結果」では、国語の「我が国の言語文化に関する事項」、数学の「図形」「関数」、社会の世界地理・歴史分野、理科の「エネルギー」を柱とする領域で市平均を大きく上回っていた。一方で、数学の「データ活用」、理科の「粒子」を柱とする領域で課題がみられた。
中2	令和5年度さいたま市学習状況調査の「教科別調査結果」において、国語+0.8pt、数学+2.9pt、社会+3.3pt、理科+2.8ptという結果だった。「教科領域等別調査結果」では、国語の「話すこと・聞くこと」、数学の「数と式」「図形」、社会の世界地理・歴史分野で市平均を大きく上回っていた。一方で、国語の「我が国の言語文化に関する事項」で課題がみられた。
中3	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は91%であった。「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は90%であった。どちらも市平均よりも高い結果であり、主体的に学習に取り組んでいると考えられる。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	R5全国学力・学習状況調査の数学の「知識・技能」において、全国平均より-0.4ptとなり、課題が見られたため、方策を追加し、さいたま市学習状況調査において、R5年度の平均正答率と比較し、1pt向上を目指す。	⇒ 日常的に、空き時間をより一層活用し、スタディサプリや基本の演習問題を繰り返し行うことを促し、演算処理でのケアレスミスがなくなるよう指導する。また、今の自分に必要なことが何であるかを考え実行する授業展開を心がけ、それぞれの学習活動が自走したサイクルとなるよう努める。
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし